

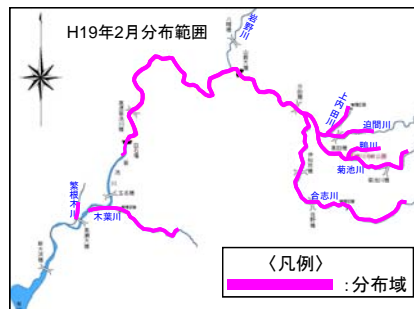
2. 4. 特定外来生物（ブラジルチドメグサ等）

菊池川の感潮区間を除くほぼ全川に特定外来生物に指定されている水草（ブラジルチドメグサ等）が繁茂している。河岸だけでなく水面に密生することから、在来種への影響、河川構造物の操作管理への支障などが懸念される。

また、洪水時等には多くのゴミとともに下流部や海岸部へ流出し、河川利用や漁業、船運等の支障、有明海の環境悪化等が懸念される。



【ブラジルチドメグサ繁茂状況】



【ブラジルチドメグサ分布状況】

3. 河川の区間区分

河川維持管理の目標や実施内容を定めるにあたって、状態把握の頻度等は河川の区間毎の特性に応じたものとする必要があるため、河川特性や背後地の土地利用等を考慮して、重要区間をA区間、通常区間をB区間として、以下のとおり区間区分する。なお、区間区分図は付図1のとおりである。

区 分	区 間
重要区間（A区間）	菊池川 49.8 k m (0k000 ～ 49k800)
	繁根本川 3.0 k m (0k000 ～ 3k000)
	木葉川 1.8 k m (0k000 ～ 1k800)
	岩野川 4.8 k m (0k000 ～ 4k800)
	合志川 8.0 k m (0k000 ～ 8k000)
	迫間川 9.3 k m (0k000 ～ 9k300)
	上内田川 2.2 k m (0k000 ～ 2k200)
通常区間（B区間）	合志川 2.4 k m (8k000 ～ 10k400)

<参考：区間区分の判別の目安>

堤 防	背後地	
	都市部、住宅密集地	山間部、農村部、中小河川
堤防高 4 m 以上	重要区間（A区間）	重要区間（A区間）
堤防高 4 m 未満		通常区間（B区間）

※ 堤防高とは、背後地盤と堤防天端の比高であり、堤防高 4 m を境界条件に区分した理由は、堤防への河川水浸透に伴う危険度の違いを考慮したものである。